

第 1712 回例会報告

令和3年10月28日(木) 晴れ

会長挨拶

「10月24日世界ポリオデー」 ポリオ根絶を目指して

会長 小口直久

「ポリオ」という病気は非常に感染性の高い病気であり、特に感染しやすいのは5歳未満の子どもです。日本では一般に「小児まひ」と呼ばれることもあります。ポリオウイルスは人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。神経系を侵すこともあり、これによって身体のまひを引き起こす可能性があります。ロータリーとそのパートナー団体は、これまで世界中30億人以上の子どもにワクチンを投与する活動を行ってきました。ポリオはワクチンで予防可能ですが、治療法はありません。ほかの多くの疾病とは異なり、ポリオは根絶可能です。

世界からポリオを根絶しない限り、今後10年以内に、世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。ポリオの常在国は現在アフガニスタンとパキスタンのわずか2カ国ですが、ポリオの発症がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中の子どもに及ぶこととなります。

ロータリーと「世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)」のパートナーは、30年にわたりポリオ根絶活動に取

り組んできました。現在では、ポリオの発症数は活動開始当時よりも99.9%減少。1985年以来、ロータリーは「ポリオプラス」プログラムの下、世界各地のロータリー会員が実施する募金活動を通じて、ポリオ根絶活動に22億ドル以上を寄付してきました。今日までの進展を維持し、世界のすべての子どもをポリオから守るため、ロータリーは毎年5,000万ドルを拠出することを目標としています。



【ポリオ撲滅する5つの理由】

1. 人々の生活を改善

撲滅活動のおかげで1,900万人の人々が身体麻痺にかかることなく、命を落とすことのなかった人の数は150万人に上ります。

2. 未来への投資

ポリオが撲滅されなければ今後10年間で毎年20万人の子供が身体麻痺となる可能性があります。ポリオ撲滅を実現する事は世界中の子供により安全な

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のことば
会員数	37人	4人	9,000円	本日は社会奉仕委員会担当例会にお越しいただきありがとうございます。超多忙な森山会員による諏訪湖のお話をさせていただきます。よろしくお願ひいたします 太田 淳也 宮坂英貴さんYEG会長おめでとうございます。大役がんばってください 溝口幸二 コロナ感染状況も落ち着いて安心して生活できる喜びを感じる今日この頃です。本日は森山会員の諏訪湖のヒシの現状ということで卓話をいただきます。状況を踏まえわれわれクラブとして何ができるか考えながらお聞きしたいと思います。 小口直久
出席対象	36人	累計	185,000円	
出席者数	25人	目標額	60万円	
ZOOM	2人	達成率	30.8%	
出席率	75.0%	前回修正	0.0%	



2021-2022 年度 諏訪湖ロータリー活動方針

「温故知新」

世界を送ることなのです

3. 子供の健康を改善

ポリオ撲滅のサーベイランス(注意深く監視する)や予防接種活動ではビタミン欠乏や麻疹といった他の健康問題の検査も行われるため早めに対処できます

4. 資金の節約

ポリオのない世界を実現することで、今後20年間で400～500億ドルの資金が節約でき、世界経済にも良い影響をもたらします

5. 歴史を作る

ポリオが、世界から撲滅されれば天然痘に続いて2番目に撲滅された疾病となり、公共保険の歴史上、最も偉大な功績の1つとなります。

我々ロータリーは、長い間ポリオ撲滅のために人道支援、また多額の拠出金によりポリオ撲滅のため尽力してきた歴史を知り、ポリオ撲滅ためには、人とお金の両方が必要であることが理解できました。我々は直接現地に赴いて活動することはできません。今、改めてポリオ撲滅に対し我々ロータリアンができることは何か、この世界ポリオデーに際し、考えてみてはいかがでしょうか。この世から少しでも早くポリオが絶滅でき、世界中の子供が安全に生きることのできる世界が来ることを願ってやみません。

第1712回例会 『いま諏訪湖は……』

会員卓話 森山 広 会員
担当 社会奉仕委員会

本日は諏訪湖を生業の場としている森山会員から全く違う目から見た諏訪湖のお話を聞きました。

いま諏訪湖で起きている大きな問題「環境問題」を超えた諏訪湖消滅の話、ヒシの繁茂とその特異な生態と対応策などなどを豊富なビジュアル材料を使っていただき、分かり易く説得力ある説明をしていただきました。あまりのリアルさに少しゾクッと背筋の寒くなるような気がいたしました。

また、後手後手にまわり、効果を期待できない政治や行政の環境浄化に果たす役割もいま一度見直す機会になるかもしれません。

少し刺激的な言い方である「諏訪湖掃除をしていれば良いのか?!」という投げかけは、私たちにも行政にも突き付けられた鋭い刃の気がします。

皆で考えてみましょう

